

“攻め”の情シスへシフトする

デバイスLCM

—組織を変えるアウトソーシング戦略



はじめに

求められる役割が拡大し続けるIT情報システム部門

IT情報システム部門は、社内インフラの運用管理からセキュリティ対策、ヘルプデスクまで担い、企業のIT基盤を守り、広範に支えています。半面、慢性的な人材不足や高度化するIT環境への対応に多くの現場が苦慮しています。

中でもPCやスマホの調達、キitting、管理、廃棄といったデバイスのLCM（ライフサイクルマネジメント）は定常業務でありながら、煩雑で時間を取られがちです。

本資料では、こうした背景を踏まえ、LCMサービスを活用することで、抜本的に業務負荷を軽減し、IT情報システム部門を“守りから攻め”の役割へシフトさせるヒントをご紹介します。

第1章 IT情報システム部門が抱える課題

煩雑かつ非効率になりがちなIT資産管理

企業のIT情報システム部門は、限られた人員で多岐にわたる業務をこなしています。

特にPCやスマホ、タブレットなどのデバイス管理や運用に関しては、業務の煩雑化・属人化・情報の分散といった課題を抱えがちです。

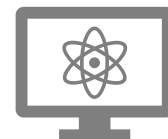
こうした状況を放置すれば、業務の非効率化が進み、管理ミスや情報漏えいを引き起こし、IT情シス部門のみならず、組織全体の生産性低下と後退を招いてしまうのです。



PCの調達、キittingやアカウント管理に、膨大な時間がかかる



IT資産の台帳管理が追いつかない



セキュリティパッチ適用漏れのリスクがある



拠点ごとの対応が属人化している



廃棄プロセスが不透明で情報漏えいリスクがある